

「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書

今、学校現場では、小・中・高校を合わせると 41 万人を超える不登校の子どもの数が文部科学省の調査で明らかになっています。とりわけ小・中学校では、11 年連続で増加し、過去最多となっています。また、貧困・いじめ・教職員の未配置など解決すべき課題が山積しており、長時間労働の実態も改善されず、子どもたちのゆたかな学びを保障するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。

学習指導要領の改訂は、子どもたちのゆたかな学びの保障や教職員の働き方改革に大きく関わります。「カリキュラム・オーバーロード」の状態等を改善することが喫緊の課題です。このため、次期学習指導要領の内容の精選や標準授業時数の削減が強く求められます。

ついては、下記の措置を講じられるよう要請します。

記

- 1 子どもたちのゆたかな学びを保障するため、「カリキュラム・オーバーロード」の早期改善および学習指導要領の内容の精選等を行うこと。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和 7 年 6 月 23 日

長野県駒ヶ根市議会

【提出先】内閣総理大臣、文部科学大臣、衆議院議長、参議院議長